

ハーモニー

Harmony

第50号記念

2009年9月10日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座

後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第17回学術集会プログラム	2
第17回学術集会<弘前>へのお誘い	7
ハーモニー第50号発行を記念して ♪♪♪♪♪	
特別寄稿(1)「研究会通信」から「ハーモニー」へ	8
特別寄稿(2)「研究会」から「学会」までのかかわり	9
特別寄稿(3)「ハーモニー」とのかかわり	9
特別寄稿(4)保健室における保健措置に生命を盛ろう	10
日本養護教諭教育学会 2009年度総会告示	11
理事会からのお知らせ	11
学会誌第13巻第1号投稿原稿募集	12
事務局より	12
編集後記	12

日本養護教諭教育学会 第17回学術集会プログラム

メインテーマ：養護教諭の実践を問い直す－教育改革の中で－

期 日：平成21年10月10日（土）12時00分～10月11日（日）15時45分

会 場：弘前大学文京町キャンパス（総合教育棟）

〒036-8560 弘前市文京町1 TEL 0172-39-3467

10月10日（土） 9:00～受付

◇プレコンgres（9:30～11:20）大会議室

学会活動委員会：「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」の検討－パート3－

◇学会長講演（12:10～12:40）第1会場……………座長 後藤ひとみ（愛知教育大学）
「日本の養護教諭と諸外国のスクールナース」 面澤和子（弘前大学）

◇特別講演（12:50～14:20）第1会場……………座長 天野敦子（前弘前大学教授）
「実践を支える『養護の原理』を求めて」 盛 昭子（元弘前大学教授）

◇教育講演（14:30～15:30）第1会場……………座長 小林央美（弘前大学）
「教育改革の意味するもの－子ども・学校は今－」 佐藤三三（弘前大学）

◇シンポジウム（15:40～17:50）第1会場

「養護教諭の実践を振り返って－見えてくるもの－」

コーディネーター：中安紀美子（前徳島大学教授）

シンポジスト：三木とみ子（女子栄養大学）竹内理恵（徳島県立総合教育センター）

佐方仁美（熊本大学教育学部附属小学校）濱端美奈子（弘前大学大学院教育学研究科）

10月11日（日） 8:10～受付

◇一般演題（8:40～11:05）第2会場

口演1（8:40～9:25）……………座長 楠本久美子（四天王寺大学）

I-1 養護教諭の職務における養護社会学的考察

－日台間比較を通して－

○安林奈緒美（飯田女子短期大学）他

I-2 保健室経営計画と保健指導・保健学習の実態調査から

－課題と今後の展望－

○藤岡光子（いなべ市立三里小学校）他

I-3 養護教諭の健康相談活動の自己評価に関する研究

－A県公立高等学校における悉皆調査の結果から－

○西岡かおり（四国大学）他

口演2（9:30～10:15）……………座長 岡田加奈子（千葉大学）

I-4 養護教諭のための「自己評価ソフト」の開発に関する研究

○林 典子（名古屋学芸大学）他

- I-5 養護教諭の専門性を支える学問の構造化試案(2)
-学問体系の枠組みから捉えた本会の研究動向- ○後藤ひとみ(愛知教育大学)
- I-6 養護教諭養成教育における「看護学」の要素に関する研究
-子どもの主訴と疾病の関連から- ○北口和美(大阪教育大学)他

口演3(10:20~11:05)..... 座長 竹鼻ゆかり(東京学芸大学)

- I-7 女子大学生の自身の性機能に関する認識
-基礎体温測定を用いた調査から- ○吉田 夏(弘前大学大学院)他
- I-8 養護教諭が行う「問診」について
-先行文献の分析から- ○松本 恵(福岡市立梅林中学校)他
- I-9 養護教諭の職業的倫理綱領は誰のため何のために必要か
-教員としての倫理観・使命観- ○鎌田尚子(女子栄養大学)他

◇「養護教諭の職業倫理に関する規定の検討委員会」報告(11:10~11:40)第2会場

- 座長 徳山美智子(大阪女子短期大学)
- 養護教諭の職業倫理綱領(行動指針・実践の基盤)に必要な内容構成の検討
-試案作成に向けて(1年次報告)- ○中村朋子(愛知東邦大学)他

◇ミニシンポジウム2(14:10~15:45)第2会場

「虐待をめぐる最近の動向-養護教諭としてどう関わるか-」

コーディネーター:山崎隆恵(神奈川県立綾瀬西高等学校)

シンポジスト:村松 敦子(キャプネット・みやぎ代表,弁護士)

舟山みどり(キャプネット・みやぎ,相談員)

佐藤 隆(弘前児童相談所所長)

◇一般演題(8:55~11:05)第3会場

口演4(8:55~9:25)..... 座長 斉藤ふくみ(茨城大学)

- II-1 自分の名前で健康標語づくり
-12年間の内容比較- ○三並めぐる(愛媛大学附属高等学校)他
- II-2 高校生の喫煙に関する意識調査について ○三並めぐる(愛媛大学附属高等学校)他

口演5(9:30~10:15)..... 座長 中下富子(埼玉大学)

- II-3 養護教諭の職務に対する管理職の期待について ○辻 立世(兵庫大学)他
- II-4 養護教諭の養成教育に望むこと
-養護教諭のインタビューから- ○岡本陽子(甲南女子大学)他
- II-5 養護教諭の職務に関する保護者の期待について ○石田妙美(東海学園大学)他

口演6(10:20~11:05)..... 座長 三村由香里(岡山大学)

- II-6 学校と学校医(内科)の連携について

- －学校医・校長・養護教諭へのアンケート調査を通して－ ○中村千景（上越教育大学）他
- Ⅱ－7 養護教諭のコーディネーションの過程の検討
- －医療的ケアが必要な児童生徒が宿泊を伴う行事に参加する場合－○岡本啓子（幾中央大学）他
- Ⅱ－8 大学生の麻疹の免疫状況について ○福士章子（東北女子大学）

◇一般演題（8:40～11:05）第4会場

- 口演7（8:40～9:25）……………座長 田嶋八千代（岡山大学）
- Ⅲ－1 養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」（第1報）
 - －科目新設10年を経た開講の実態－ ○高橋英実（北翔大学）他
- Ⅲ－2 養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」（第2報）
 - －科目担当者の特性からみた開講状況－ ○寺崎由貴（北翔大学）他
- Ⅲ－3 養護教諭養成教育における「健康相談活動の理論及び方法」（第3報）
 - －開講状況からみた養護教諭養成教育の課題－ ○今野洋子（北翔大学）他
- 口演8（9:30～10:15）……………座長 河田史宝（茨城大学）
- Ⅲ－4 不登校・別室登校・保健室登校経験者にとっての保健室の役割
 - 伊藤智恵子 他（仙台市立生田中学校）
- Ⅲ－5 問題行動のある生徒に対する保健室登校援助実践事例の検討
 - 中村富美子（沼津市立大岡南小学校）
- Ⅲ－6 職員室での茶飲みコミュニケーション
 - －養護教諭の学級担任支援の姿勢を探る－ ○松永 恵（茨城大学大学院）他
- 口演9（10:20～11:05）……………座長 下村淳子（愛知学院大学）
- Ⅲ－7 意欲的に永久歯のう歯予防ができる子どもへの変容を目指して
 - －染め出しチェックカードを使用した歯みがき指導の検討－ ○岩田礼子（仙台市立荒巻小学校）
- Ⅲ－8 児童生徒のストレスコーピングに関する養護診断の開発 ○遠藤伸子（女子栄養大学）他
- Ⅲ－9 中学生の悩みとその対処行動および学習との関連について
 - 木下正江（水戸市立第一中学校）他

◇テーブルセッション1（11:10～11:40）第4会場

「特別支援教育をもう一歩進めるために－養護教諭としてどう関わるか－」

司会：面澤和子（弘前大学）

講師：中村 修（田舎館村立西小学校）

◇テーブルセッション2（13:10～14:00）第4会場・・参加対象は非学会員

「発達障害への対応を探る」

司会：赤木光子（青森県立青森高等学校）

講師：中村 修（田舎館村立西小学校）

佐藤忠全（弘前大学教育学部附属特別支援学校）

◇一般演題 (9:45～10:50) 第5会場

口演 10(9:45～10:15) …………… 座長 鎌田尚子 (女子栄養大学)

IV-1 子どもを捉える養護教諭の視点の変遷

—テレビドラマにおける養護教諭像と学校現場とのつながり—

○久保千恵子 (東北大学大学院)

IV-2 広瀬ますの学校教育に与えた影響

—日本初公費負担による学校看護婦の京町小学校における養護活動を通して—

○石川フカエ (福岡県立大学) 他

口演 11(10:20～10:50) …………… 座長 三上純子 (青森県総合学校教育センター)

IV-3 小・中学校の特別支援教育体制における養護教諭の活動実態と役割

○大谷育実 (岡山大学大学院)

IV-4 LD, ADHD, 高機能自閉症等の発達障害のある子どもをもつ保護者の思いと養護教諭の役割

○古川 (笠井) 恵美 (川崎医療福祉大学大学院)

◇ランチョンセミナー (12:00～12:50) 第1会場 …………… 座長 佐藤雄一 (弘前大学)

「低身長児の診断と治療」

羽二生邦彦 (羽二生クリニック院長, 東北大学医学部非常勤講師)

◇総会 (13:10～14:00) 第1会場

◇ミニシンポジウム 1 (14:10～15:45) 第1会場

「思いを語る—養護教諭養成のこれまでとこれから—」

コーディネーター: 大谷尚子 (聖母大学)

シンポジスト: 堀内久美子 (名古屋学芸大学) 石原昌江 (岡山大名誉教授)

松嶋紀子 (川崎医療福祉大学)

◇ポスターセッション (8:40～11:05) 第6会場

ポスター I-1 (8:40～9:25) …………… 座長 本田優子 (熊本大学)

P-1 教員養成大学生のアレルギー疾患に対する知識と理解

○山田玲子 (北海道教育大学札幌校) 他

P-2 養護教諭が行う慢性疾患を持つ児童生徒支援のための連携に関する研究

○田村恭子 (上越市立春日中学校) 他

P-3 養護教諭の慢性疾患の子どもへの支援のあり方について—保護者への面接調査からの考察—

○角掛奈緒美 (佐賀市立松梅小学校) 他

ポスター I-2 (9:30～10:15) …………… 座長 吉田あや子 (西南女学院大学)

P-4 養護教諭の学習ニードアセスメントツールの開発

—信頼性と妥当性の検証—

○野本百合子 (愛知県立医療技術大学) 他

- P-5 養護教諭免許を目指す学生への看護学の検討
 -臨床実習アンケート調査から- ○樫地千恵美(徳島文理大学)他
- P-6 養護教諭の期待する免許更新講習 ○大川尚子(関西福祉科学大学)他
- ポスターI-3(10:20~11:05)..... 座長 鈴木薫(岡山大学教育学部附属小学校)
- P-7 高等学校における保健教育に関する検討
 -応急処置場面におけるからだ教育のあり方について- ○高田幸子(北海道函館中部高等学校)
- P-8 健康相談活動における養護教諭の専門性が確認できる記録の試み
 ○堀川敏子(上越教育大学大学院)他
- P-9 健康相談活動における児童生徒への対応の実態
 -タッチングに焦点をおいて- ○白田美郷(北翔大学)他
- ポスターII-1(8:40~9:25)..... 座長 北口和美(大阪教育大学)
- P-10 養護教諭の職業ジレンマに関する研究 ○丸井淑美(狭山市立入間野中学校)他
- P-11 2つのライフヒストリーからみた養護教諭のキャリア発達についての一考察
 ○古賀由紀子(九州看護福祉大学)他
- P-12 養護教諭養成課程におけるキャリア発達の促進
 -教育支援センターとの連携を図ったとりくみを通じて-
 ○角田智恵美(上越教育大学大学院)
- ポスターII-2(9:30~10:15)..... 座長 鈴木裕子(国士舘大学)
- P-13 戦前における小学校衛生教育と学校看護婦の実態
 -1930年代の教育報告書の文献解読を視座に- ○小柳康子(福岡大学)
- P-14 北海道における養護教諭養成の歴史に関する研究(第2報) ○日形井香里(北翔大学)他
- P-15 養護教諭の行う自死遺児支援について ○大場祐子(秋田市立下浜小学校)他
- ポスターII-3(10:20~11:05)..... 座長 古賀由紀子(九州看護福祉大学)
- P-16 小学校歯科保健指導の実践研究 -養護活動の検討- ○倉永小百合(豊橋市立飯村小学校)
- P-17 食育実践校における児童の生活習慣とストレス実態 ○樋口佳奈(北翔大学)他
- P-18 荒れた中学校での健康認識を育てる取組事例の検討 -養護教諭からの発信-
 ○工藤洋子(五所川原市立一野坪小学校)
- ポスターIII-1(10:50~11:05)..... 座長 葛西敦子(弘前大学)
- P-19 HIV感染予防のためのピアエデュケーション活動の評価と課題
 ○毛受矩子(四天王寺大学)他



第17回 学術集会〈弘前〉へのお誘い (10月10日～11日)

学会長 面澤 和子 (弘前大学教育学部)

このニュースレターが皆様のお手元に届くのは、学会開催まで残り約1ヶ月の頃でしょう。この原稿執筆中の今は、夏の風物詩「弘前ねぶた祭り」(8/1～7)が終わり、少し前まで夜間に運行されていたねぶた囃子と大地を震わせるような大太鼓の響きがまだ余韻となって耳に残っています。津軽の夏の夜を彩る大小約60台のねぶたは、三国志や水滸伝などの武者絵を題材として絵師が描いた勇壮な絵に彩られた扇形の大 lantern です。子どもから大人まで参加して運行します。弘前大学は昭和39年以來45回参加していますが、学長をはじめ、教職員、子ども達、留学生などが揃いの浴衣で参加します。この祭り期間中も準備を進めた学会のねらいについてお知らせし、皆様に参加を呼びかけたいと思います。

第17回学術集会のテーマは「養護教諭の実践を問い直す—教育改革の中で—」です。

一日目：まず面澤が日本の養護教諭の特色を浮き彫りにしたいと考えています。そして盛昭子先生(元弘前大学教授)の特別講演「実践を支える『養護』の原理を求めて」で、養護教諭の実践の原点に立ち返り、実践を支える「養護の原理」を追い求めてきた過程で見えてきたことについて話して頂きます。

教育講演では前教育学部長の佐藤三三先生に、今回の教育改革のとらえ方、その中での養護教諭のあり方について話して頂きます。

シンポジウム「養護教諭の実践を振り返って—見えてくるもの—」では、三人の現職養護教諭(行政を含む)の先生方に、ご自身の実践を振り返っ

て転機となったでき事やその後の実践をお話しして頂き、現在、養成教育の立場にある三木先生のお話と絡めて討論を深めたいと考えています。

二日目：一般発表数は、皆様のご協力を得て、口演30、ポスター発表19になりました。充実した発表になるものと期待しています。

またテーブルセッションでは特別支援教育に2つの時間帯を設定しました。そのうちの1つは総会の時間帯と重なっていますが、地方の非学会員の待ち時間に配慮したためであることをご理解いただきたいと思います。

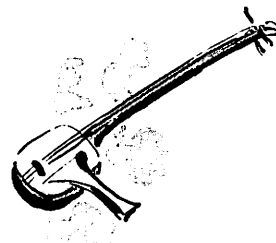
ミニシンポジウム1「養護教諭養成のこれまでとこれから」では、先輩の先生方の熱い思いを語っていただき、歴史を引き継いで行く大事な機会にしたいと考えています。

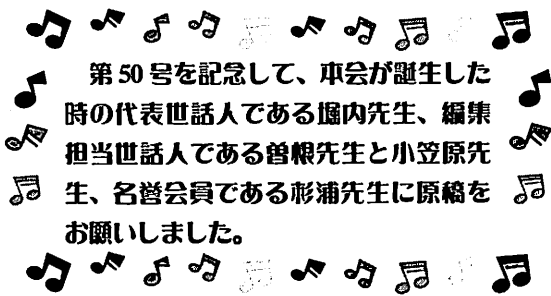
また、ミニシンポジウム2「虐待をめぐる最近の動向」では、民間団体と児童相談所のシンポジストに具体例を紹介していただき、制度的な課題、学校との連携のあり方等を議論する機会にできればと考えています。

懇親会では郷土料理、プロの津軽三味線奏者等の演奏をお楽しみ頂けます。

皆さん、どうぞおいでください。

(2009.8.11記)





第50号を記念して、本会が誕生した時の代表世話人である堀内先生、編集担当世話人である曾根先生と小笠原先生、名誉会員である杉浦先生に原稿をお願いしました。

特別寄稿 その1

「研究会通信」から 「ハーモニー」へ

堀内久美子 (名古屋学芸大学ヒューマンケア学部)

学会の前身である全国養護教諭教育研究会(以下、「研究会」と略記)は1992年11月21日に発足し、12月25日には「全国養護教諭教育研究会通信」第1号が発行されました。B5判1ページの小さなもので、研究会の発足と会員数(12月10日現在38名)、第1回年次大会(研究大会)開催予定(1993年11月27日)など、会員へのお知らせが記載されています。

「通信」という名称は平凡であり硬い印象を与えるので、オリジナルの名称をつけることが世話人会で決まり、第1号でさっそく「名称募集」の呼びかけをしました。第2号でも募集要項を示し、応募のあった名称を1993年11月第2回総会(設立総会を第1回とする)の総会に提示し、挙手で採決して「ハーモニー」と決めました。こうして「通信」の名称は第3号で終わり、第4号(1994年1月22日発行)から「ハーモニー」と改称されました。第4号は「特集 第1回研究大会報告」を組んだ、17ページの分厚いものです。特集は15ページにわたり、シンポジウム「養護実習一学生の力量形成に向けて」、一般演

題7題、総会議事、参加者アンケートの要約など、研究大会の内容を詳しく伝えています。

学会誌創刊号の発行は1998年ですから、それまでは「ハーモニー」だけが学会事業の内容を伝える媒体でした。「通信」第1号は学会の歩みを示す重要な資料として学会誌創刊号に収録されています(P.110)。

「ハーモニー」となってからは、世話人の中で担当者を決め、前号・次号の継続性なども考慮し、新しい企画が開発されました。たとえば養護教諭養成機関の組織紹介、全国各地からの活動紹介、教育行政関係の動き等々です。担当の小笠原・曾根両先生のご尽力により、これらの企画で内容が格段に充実しました。

様々な原稿をデータでパソコンに取り込んで編集(割り付け)するのは手間がかかる上に美的なセンスも必要です。小笠原先生は勤務校の最新機種を駆使して毎号これにとりくみ、見栄えよく仕上げてくださいました。

現在は編集委員会が「ハーモニー」の企画と実務を担っています。担当者が交代しても、原稿集めなどのご苦勞は相変わらずとお察しします。会員にとっては、タイムリーな企画やホットニュースなどの内容が役に立ちますし、読むことが楽しみでもあります。

「ハーモニー」は学会の中核と各会員を結びます。 「ハーモニー」には、様々な職種や立場の人々が協力しあって養護教諭教育の向上に尽くそうとの意味がこめられていると思います。「ハーモニー」が今後とも充実発展することを願っています。



「研究会」から 「学会」までのかかわり

曾根睦子（元：筑波大学駒場中・高等学校）

1992年の研究会発足から17年、その間に発行された機関紙「ハーモニー」が第50号を迎えたこと、大変嬉しく、感慨無量です。

私は、養護教諭の養成から附属校の養護教諭に転職後、当時、全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会の会長の立場にあり、附属校の養護教諭が携わっている養護教諭教育（養成、実習等）及び研究活動の推進に取り組んでおりました。また、養護教諭の全国組織として、全国養護教諭連絡協議会設立とその発展に努めておりました。そこで、養成と現場を繋ぐ役割を果たせると考え、研究会設立に参加し、設立の趣旨・会の目的に賛同し準備会世話人の3名の養成機関の先生方に加え、現場養護教諭として小笠原先生と共に発足時から世話人を務め、会運営・研究（養護実習）で多くを学ばせていただきました。

また、第1回研究大会を横浜国立大学附属養護学校を会場とし、同大学附属中学校の中川先生が世話人に加わりました。世話人会(拡大)は、私の勤務校の大会議室で開催でき、好都合でした。

当初、機関誌は「全国養護教諭教育研究会通信」として、世話人代表の堀内先生が作成してくださり、第4号から「ハーモニー」とし、レイアウトも現在のようにになりました。

当時のフロッピーには「ハーモニー」の編集後記、「ほっとニュース」（学校教育法施行規則の一部改正、保健主事に関する掲載）の原稿、総会・世話人会記録もありました。

日本養護教諭教育学会までの準備（会則案等）に携わり、世話人を退任しました。

「ハーモニー」 とのかかわり

小笠原紀代子（前：筑波大学附属興学校）

堀内久美子先生が発信してくださっていた全国養護教諭教育研究会通信から引き継いだ「ハーモニー」の創刊号は、文作という名のワードプロセッサを用いて作成しました。「ハーモニー」の書体は？罫いは？と、いろいろ試してみました。今なお、ほぼ当時のまま踏襲されていることを嬉しく思うと同時に「ハーモニー」を視るにつけ、当時の職場で人気のない時間帯にワードプロセッサに向かっている自分自身が目に浮かびます。

全国養護教諭教育研究会の基礎づくりを、との願いが詰まった原稿を前に、その願いを学ばせていただきながら、レイアウトを考え、限られたスペースに収めるのは楽しい作業でした。職場は44学級、幼稚園から歯科技工科までの、5校種それぞれの運営による中、一人配置で多忙でしたが、ハーモニーに携わることが日本学校保健学会共同研究班での学びから全国養護教諭教育研究会での学びへの繋がりをいただくと同時に、日常の勤務からの気分転換にもなっていたように思います。

「ハーモニー」という愛称は、会員の声や思いが調和し響き合うようにとの願いを込めたもので、実は、私がいくつか応募した中の一つでした。私が議長を務めた93年の総会で決定しました。「ハーモニー」は黒板の下の端に目立たないように貼り付けたのですが、多くの会員が挙手をされました。ハーモニーという響きが良かったのでしょうか？

養成教育に携わっている現在、今から明日に向かう養護教諭にかかわる情報を「ハーモニー」から学ぶことを楽しみにしております。

保健室における 保健措置に 生命を盛ろう

杉浦守邦（名誉会員・山形大学名誉教授）

日本養護教諭教育学会の当面の課題を一つ。

新学校保健安全法が制定されて一年が経過した。この法で新たに提示されながら、まだその内容が定まらない領域がある。第7条「保健室」の条項の中に規定された「その他保健に関する措置」である。

この法律公布にあたって出された文部科学省局長通知（20・7・9文科第522号）にも明らかにされていないが、筆者はこれを次のように解する。

保健室登校を合法化させるための処置であろうと。

この度の法改正のきっかけとなった中央教育審議会への諮問にあたって、文部科学大臣から提示された参考データの中にも、養護教諭がメンタルヘルスに関する問題で支援した子どもがいた学校の割合は八割から九割をこえ、そのうち現実に養護教諭が支援したメンタルヘルスに関する問題を見ると、不登校や保健室登校に関するものが二割から三割に達して、人間関係（友達・家族）に関するものより僅かに少ないとはいえ、実に第二位を占めることを明らかにしている。

では、この保健室登校がこれまでの教育法規上で認められる措置であったかという

と、保健室に関する規定はただ一つ。旧学校保健法の第十九条に「学校には、健康診断、健康相談、救急処置等を行うため、保健室を設けるものとする」とあるだけであって、これを厳重に解釈するかぎり、保健室登校はいわば法定外使用、目的外利用と言わざるを得ないのである。しかし、現実には大臣も認めるように、多くの学校で遂行され大きな成果を上げて来ているのである。この事実は無視できない。この矛盾を解消するための対策として、この「保健措置」の条項が挿入されたと解するのである。

保健室登校そのものがすでに保健措置であるが、この保健室登校者に対して養護教諭が各個人に即して行っている指導援助の具体的内容もまた立派な保健措置と言える。たとえばいじめにあった子どもが体のこわばりを訴えて保健室にすくんでいるとき、その緊張を解くためにマッサージを行い、深呼吸（腹式呼吸）運動を指導するのも保健措置であるし、厳しすぎる担任教師の存在がストレスとなって腹痛症状を現して来た児童に対して、養護教諭が心の平安を取り戻すため、スキンシップや声掛けをしながら、折紙をさせたり自由画を描かしたり、その他種々のリラクゼーション法を試みるのも立派な保健措置である。

一方、又保健室登校者には、ややもすると体質的に過敏であると同時に自我が未熟で、ストレスに対する耐性が弱く、自主性や自尊心の欠如傾向が見られる。これに対して、乾布摩擦等により体質の改善を図るとともに、成功達成経験を多く踏ませることによって自信を回復させ、自我の成長をはかる等の指導が求められる。

このような試みは多くの保健室で実施され大きな成果を上げているが、その内容は上

記のように大別して二つがあげられる。一つは緊張緩和・精神安定の措置であり、いま一つはストレス耐性強化・自我再建の措置である。

これら全てを養護教諭ひとりで遂行することは時に困難であって、多くの教職員の理解と協力のもとに進められてこそ達成されるものである。しかし、その中心となるのはあくまでも養護教諭自身であって、すぐれた判断力、構想力、推進力が求められる。

このような構想力、推進力を養うには、実際に保健室登校者に対して行って成果を取めた事例を見習うのが最も効果的である。多数に及ぶこれらの成功事例を集めて事例集を編集したり、その具体的なテクニックを集大成して広く会員に提供することも当学会の重要な役割といえるのではなかろうか。

このような保健措置の活動例は、単に保健室登校者に限るものではなく、そこまでに至らなくても保健室頻回訪問の者、欠席常習者、引きこもり傾向者等にも応用されよう。

新しい学校保健安全法は、保健室を心と体の発達支援の場として位置付け、新に保健指導、保健措置の活動を加えて成立した。保健室の主宰者である養護教諭にとって、自己の専門性、ひいては存在価値を最も的確に発揮できる場としての条件が整ったと言ってよいであろう。保健室登校者の指導という世界でも類を見ない活動の実践者として、この新しく設けられた保健措置の活動に生命を吹き込もうではないか。



日本養護教諭教育学会 — 2009年度総会告示 —



理事長 後藤ひとみ

下記の日程で2009年度総会を開催いたします。
欠席される方は、同封の委任状を9月30日(水)
必着にてお送りください。

- | | |
|------|---|
| ☆日 時 | 2009年10月11日(日)
13:10～14:00 |
| ☆場 所 | 弘前大学総合教育棟第1会場 |
| ☆議 題 | 1. 2008年度事業報告
2. 2008年度決算報告
3. 2009年度事業経過報告
4. 2010年度事業計画
5. 2010年度予算審議
6. 投稿規定の改正
7. 内規の制定
8. 2011年学術集会
9. その他 |

理事会からのお知らせ

学術集会一日目の9:30よりプレコンgressを開きます。「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第一版>」(2006年3月発行)の3年間の活用状況、近年の教育の動向を踏まえて自由に語り合い、今後の修正のための参考にしたいと思います。皆さん、是非ご参加ください。

学会誌第13巻第1号
投稿原稿募集
—締め切り迫る—

「日本養護教諭教育学会誌」第13巻第1号(2010年3月発刊予定)の原稿を募集しています。会員の皆様は奮ってご投稿ください。

- 投稿資格：本学会の会員に限ります。
- 原稿の種類：論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、研究ノート、資料、その他です。いずれかを明記してください。
- 締め切り：第13巻第1号の締め切りは、2009年9月30日(水)必着です。期日が迫っていますので、ご注意ください。

詳細につきましては、学会誌第12巻第1号P.168～173に掲載の投稿規定または学会HPでご確認ください。

※原稿の送付および問合せは、下記編集委員会事務局にお願いします(学会事務局とは異なりますので、ご注意ください。)

<編集委員会事務局>

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1

国士舘大学文学部 鈴木裕子

TEL: 03-5451-8161 (研究室直通)

e-mail: suzukiyu@kokushikan.ac.jp

事務局より

今期も前期に引き続き、下記のお二人に事務局幹事をお願いしました。ここに、ご報告致します。

事務局長兼任理事 下村淳子

- 井澤昌子(名古屋学芸大学)
- 圓岡和子(愛知県立三好高等学校)

☆会費納入のお願い

2009年度会費を未納の方は納入をお願い致します。(口座番号は、ハーモニー表紙をご覧ください。)なお、会則第6条の規定により、会費を2年以上滞納した会員は退会扱いとなります。但し、会費が未納であっても退会の届けがない限りはハーモニー及び学会誌を送らせていただきます。従いまして、2年以上の会費未納によって退会扱いとなった場合でも未納分の会費は納入していただくこととなりますのでくれぐれもご注意ください。

☆学会HPの更新について

昨年度秋より専門家のアドバイスを受けてプロバイダーを変更しました。新しいシステムのため、更新技術のマスターに手間取りましたが、今後はより速やかな更新に努めます。掲載内容などへのご意見・ご希望などがございましたら、事務局までお知らせ下さい。なお、ご連絡は、下記本学会ホームページアドレスまでお願いいたします。

<http://www.yogokoyou-kyoiku-gakkai.jp>

編 集 後 記

ハーモニーが第50号を迎え、特別企画として、本学会の歴史のはじまりやこれからの道標について、特別寄稿をお願いしました。改めて16年間の重みを感じました。第60号、第70号、そして100号を発行するころにはどんな紙面になっているでしょうか。

弘前の学術集会でお目にかかれそうですのを楽しみにしております。

(鈴木 薫)

